

あすなろ通信 47号

編集 NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ

事務局 〒728-0006 三次市島敷町 36 番地 7

(TEL 0824-55-6301 FAX 0824-55-6302)

HP <http://asunaro-juku.sakura.ne.jp>

発行日 2022年5月27日

今月のことば

人は何度やりそこなっても、「もういっぺん」の勇気を失わなければ、かならずものになる。

松下幸之助

年度初めの二挨拶

あすなろ塾 塾頭 影山克典

【はじめに】

二〇二二年度がスタートしました。今年度は「あすなろ塾」設立二二年目の年です。私が塾頭に就任して七年目となります。これまでのスタッフのみなさん、様々なご苦労があったかと思いますが、私もこの塾に来て様々なことに直面しました。平穩無事で何もなかったという年は一年たりとありませんでした。生徒への取り組みの課題や新しい発見などは望むところですが、それとは別の運営に関することも多くありました。

【二〇二二年度のこと】

昨年度もまたいろいろなことがありました。

一つ目は、生徒数にみられる成果と課題です。二〇二二年度の生徒数はスタート時点では六人と少ない出発でした。また、授業料減免対象生徒の割合も過去最低の低さ(33.3%)でした。それが年度末には生徒数は例年と同様の一二人となりましたが、授業料減免対象生徒の割合は33.3%と低いままでした。学習塾としての取り組みが一定の評価を得ているという成果と、授業料減免対象生徒や保

護者の認知度がまだまだ低いという課題が入り交じった年でした。

また二つ目は、運営面では、年度当初の運営資金確保の取り組みと、年度末から今年度にかけての場所の契約問題がありました。前者については様々な方々のご支援を得て、満足いくものとなりました。後者については、より良い整理ができたとは言いがたいですが、現在同じ場所を塾を継続しています。

【二〇二二年度のこと】

今年度のスタートは一年生四人、二年生五人、三年生七人、計一六人のスタートとなりました。私がこの塾に来てから最高の人数です。

このことは学習塾としての評価が一定程度高まっていることの表れと自負していますが、そこには大きな課題も内包しています。それは授業料減免対象生徒の割合が低いということです。七年間の平均は52.9%ですが、今年度は43.8%となっています。昨年度末の33.3%より高くなっていますが、「経済格差を教育格差にしない」という目標からして不満の残る数値といえます。

もつと授業料減免対象生徒やその保護者の方々への情宣活動が必要と考えます。

また、運営面における資金確保の問題

と場所の確保については引き続きの課題となります。気を緩めることなく取り組んでいきたいと考えています。

【おわりに】

今後とも「経済格差を教育格差にしない」という私たちの活動をやるつもりはありません。まだまだ十分な活動ができていないと思いますが、わずかながらではあっても、成果はあげ続けていると考えています。

スタッフ一同今年度も精一杯頑張る覚悟です。あらためてこの決意を述べることで、皆様方のご支援・ご協力に感謝しつつ、年度初めの二挨拶とさせていただきます。(四月一日記)



二〇二二年度総会報告

「NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ」の二〇二二年度総会を、五月十五日（日）十六時から開催しました。

二〇二二年度活動報告・事業報告、会計報告・監査報告の承認、二〇二二年度事業計画及び予算、役員の承認の議案が提示され、全員一致で可決されました。承認された新年度役員は次のとおりです。

理事長	松本 信司（留任）
副理事長・塾頭	影山 克典（留任）
理事	瀬川 政博（留任）
理事	守本 秀樹（留任）
監事	高橋 良治（新任）
会計	三橋 豊（留任）

長年にわたって理事を務めていただいた三橋豊さんは今年理事を退任され、会計に専念いただくことになりました。また、監事を長年務めていただいた深田俊克さんが退会されました。今年度新たに福岡泰祐さんを正会員に迎えました。

昨年度の総会で三次市の助成金が一年間はもらえることになったと報告しましたが、三年間であったこと、今年度末までには賃貸契約が終了するので転居する予定であることが報告されました。

今後ともみなさんのご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

合格者の声

昨年度在籍していた三年生全員が希望する高校への進学を果たしました。合格した喜びと高校生になる決意を書いてくれましたので紹介します。

進路において・・・ A

私の合格するまでの過程の中で最も大変だったことは、小論文の勉強です。なぜなら、私は選抜Ⅰを受験できると決まるまで一度も小論文を書いたことがなかったからです。経験したことのないものだったのでより一層難しさを感じていました。しかし、学校や塾での小論文の勉強や宿題をこなすことで無事志望校に合格することができました。選抜Ⅰでは小論文に加えて面接がありました。私はあまり人と話すことが得意ではありませんでした。しかし面接も色々な先生との練習を通し、先生からのアドバイスを取り入れることで、自信が付き安心して試験に臨むことができました。私は受験を通して練習や勉強の大切さを学ぶことができました。多くの人の援助と私自身の努力が合格という結果につながったためとてもうれしく思います。

私は高校に入学してからは、これまで以上に勉強に励んでいきたいと思っています。私は商業高校に進学するので、学ぶ教科の数が大幅に増えることは確実です。そ

のため、今まで以上に勉強に励まなければ、回りに遅れをとってしまうことになります。また、勉強したことを活かすために、さまざまな資格の取得に励んでいきたいと考えています。さまざまな資格を取得することで、就職や進学をする時に有利になると思います。また、中学校では部活動に充てていた時間を、これまでにできなかったアルバイトや娯楽に充てていきたいと思っています。

後輩である一・二年生の皆さんの中には、近くの高校に行く人や、遠くの高校を受ける人、また、併設型の中学校の人がそのまま高校に進級したりなど、進路はバラバラなのではないかと思っています。中学校生活では、受験やテストなどに備えて勉強することも大切です。しかし、中学校生活でしか経験できないことを探すこともまた大切です。私の場合だと、高校に行くバラバラになってしまいう今のクラスメイトとの残された少ない、かけがえない時間を充実したものにすることがです。皆さんも残りの中学校生活は悔いの残らない様に過ごしていってください。

NEVER GIVE UP ... B

私は、第一志望の高校に合格することができました。今まで何度も苦難がありました。それを乗り越えることがで

きてとても嬉しいです。学校の先生に選抜Ⅲを覚悟しておけと言われていましたが、その言葉に折れずに努力を続けて報われたので本当に良かったと思っています。

受験勉強をしている時に、しんどかったことは、集中力を切らさずに、勉強し続けることです。私は、集中力が長続きしないため、何度も集中が途切れ、勉強できない時がありましたが、影山先生や守本先生の言葉のおかげで、今一度、自分自身を見直して、勉強することができました。この経験を活かし、これからも集中力を切らさずに勉強していきたいと思っています。

高校に入学してから頑張りたいことは、あすなろ塾の経験や学校生活で培ったことを活かし、これからも頑張っていくことです。

新型コロナウイルスのせいで、中学校生活でもあまりできなかった、部活動を高校でも続けていきたいです。また、文化祭や体育祭、ボランティアなどにも積極的に取り組み、中学校生活以上の青春をしたいです。

中学生活における心残りは、二つあります。一つ目は、新型コロナウイルスによりあまり部活動ができなかったことです。私の入っていた部活動は、三年生が四人という少ない人数でしたが、この四

人での部活動は楽しく、心に残るようなものだとは感じています。二つ目は学校行事を学校全体で盛り上げることができなかったことです。一年生の時はまだしも、二・三年生は、コロナウィルスのせいで、学年別の体育祭や全校合唱のない文化祭など、しっかりと学校全体を大いに盛り上げることができなかったもので、高校生活では、大いに盛り上げたいです。最後に、あすなろ塾の生徒へアドバイスをしたいと思います。私から言えることは、何事にも積極的に行動し、学校の先生や塾の先生方に感謝を忘れないことです。勉強面での大切なことはあります。がそれよりも日々努力を続けることで、いつかは報われます。そのことを心に留めておき、NEVER GIVE UP の精神で頑張ってください。

努力は決して裏切らない C

私は先日、選抜Ⅰ（推薦入試）で自分の行きたい高校に内定をもらうことができました。ここまでこられたのは、あすなろ塾の先生方のおかげだと思います。私が、入試というのを意識し始めたのはこの塾に入塾して少し経ってからです。入塾したての時は、学校で今習っていることだけを頑張ってきました。しかし、一・二年生の復習をしたりしていくうちに、入試まで残り何ヶ月だと意識も強く

なりました。自分自身の意識が変わり、

受験を終えて D

D

学校の授業に対しても変化がありました。学校の先生の話を聞き逃さずに、出された問題は自分の力で解き、分からなければ分かるまで先生や友達に聞くようにしました。その結果、学校の定期テストが以前は悲惨な点数でしたが、どんどん点数が上がっていきました。また、塾の模試でも少しずつ点が上がりました。私は、入塾してから塾の先生方からサポートし続けてもらい、努力し続けることができたおかげで、選抜Ⅰで受験することができました。推薦をもらってからは、普段の授業に加えて、小論文対策や面接練習を塾でもしてもらいました。そのおかげで、入試当日は少し緊張しながらも今までやってきたことを信じてしっかりと小論文や面接をやりきることができました。

そして、自分の行きたい高校に内定をもらうことができました。このとき私は、嬉しさと同時に、努力は裏切らないのだと思うことができました。私は、今のあすなろ塾にいる一・二年生や新しく入る新塾生に、もし勉強で苦しいことがあっても塾の先生方もサポートしてくれるので、努力して自分の行きたいと思う高校に進んで自分の人生をもっと素晴らしいものにしてほしいです。これからも頑張ってください。

私は、選抜ⅡでE高等学校を受けました。あすなろ塾に入るのが三年生の後半で遅かったことや、他の三年生が選抜Ⅰで内定をもらったこともあり、すごく焦りや不安がありました。しかし、先生方が最後まで熱心に指導してくださったり、他の塾生やお母さん方の支えがあったりしたことで、今は喜びと安心、感謝で一杯です。

高校に入ってから、したいと思うことを全力で楽しみながら過ごしたいと思っています。勉強面では分からないところをそのままにしたりせず、苦手な教科も得意な教科も伸ばしていけるよう頑張っていきたいです。また本が似合う落ち着いた女子になれるよう頑張ります。

一・二年生みなさん、短い期間でしたがありがとうございます。今もう志望校が決まっている人、いない人がいるかもしれませんが、自分が行きたい、したい、なりたと思うことは、全力で今のうちから頑張ってください。上手いかなかったり、したいと思うことができなかったとしても、諦めず頑張ってください。選択しないといけない場面に直面したときは、決めるのは自分自身であるから、自分が後悔せず進める方を見つけて頑張ってください。

約五ヶ月間ありがとうございました。

2022年度 塾 生 募 集

あすなろ中学部

○少人数&個別指導で学べます。

○コースは2種類。

◇英数コース（週2回）

月14,000円

◇理社コース（週1回）

月6,000円

○授業料減免措置があります。

◇ひとり親家庭は半額免除

◇生活保護家庭は英数コース 月2,000円、理社コース 月1,000円

○あすなろ塾は授業料以外の経費（テキスト、模擬試験、夏季講座等）は徴収いたしません。

入塾受付

期間 随時（ただし、火・水・金曜日）

時間 16:30~18:00

場所 あすなろ塾

○電話でも受け付けます。

Tel 0824-55-6301



農家の現状と今後

理事長 松本信司

週末二泊三日の田舎暮らし

私は五月の連休明けから、週末は二泊三日で生家に帰省し農作業を頑張っています。九月までの週末はほとんど生家です。農作業と言っても主には家周辺と田んぼの法面の草刈りと畑での野菜作りです。草は刈っても刈っても次から次へと生え正に草との闘いです。夏は暑さとの闘いでもあります。午前中は六時から九時まで、午後は四時から七時までの計一日六時間です。

金曜日仕事が終わると、帰り途中のスーパーに寄ってビールを買い込み、生家に向かいます。食料はつれあいが煮物やその他色々な食材をクーラーに入れて持たせてくれます。生家に着くなり彼女の料理でカープの試合を観ながらビールをブシュ…？たまらない瞬間です。

母の偉大さ

こんな生活は二〇一七年に母が亡くなってからです。もう五年続いています。それまでは母が毎日畑に出て丁寧に手作業で草取りをし、野菜の管理をしていました。「手を掛ければ掛ける程良い野菜が出来る」というのはその時実感しました。

出来た野菜は子どもや孫の所へ送り、郵便配達屋さんや訪ねて来られる方があれば必ず持たせていました。それが母の喜びでした。

喜びでした。

母が亡くなって畑を荒らすわけにはいかず、「母が頑張った畑だから。」と思い、私も僅かばかりの知識で野菜作りを始めましたが、なかなか難しく、週末農業では良い野菜は出来ません。

私の生家は旧双三郡吉舎町安田で、私は農家の出身です。子どもの頃、春と秋の農繁期は嫌でしかありませんでした。旧三次市内に今の住居をかまえて三五年になります。最近我が家の近くに新築の家が何軒も建てられ、先日引越して来られた方は吉舎町安田の方でした。正に「過疎が過疎を食う」(過疎地の中でも人口が集中する地域があり、周辺の過疎化に拍車をかけること)状態です。

かつて農業は国民にとって今よりもっと身近なものでした。農家だけではなく、都会に住んでいる人も家族や親戚で農業をやっている人を探すのは難しくありませんでした。だから「農業や農村は大切」という言葉は、多くの人の心にすんなり響きました。

農家の実情

もちろん今都市部で暮らしている人も農業は大事だと思っているでしょう。しかし高齢農家が引退し、あとを継ぐ人が足りなくて、荒れはてた田畑の様子をどこまで知っているでしょうか。先日生家の常会があり公道の草刈りが議題となり「高齢者ばかりで出る人もだんだんと少なくなり、いつまで出来るか？」と話になりました。以前は一二軒あった常会も

今は一〇軒になり、その内で常会の行事に出られるのは七人です。いつまで常会の組織が維持できるかは直近の大きな課題です。

振り返れば高度成長時代、「金のタマゴ」と言われて若者が農村から都市に移りました。農家の収入はサラリーマンほどには増えませんでした。食生活が欧米化してコメをはじめとした日本の農産物の需給バランスが崩れました。そうした中で農産物の輸入も増え続けました。

いろいろなことが負のスパイラルに入って、今日にいたっています。兼業農家の多くはもともと専業農家でした。しかし農業では暮らしが成り立たないので、ほかで稼ぐために兼業になりました。地域社会を支えてきたのは彼らです。

これからの農業は

私が以前勤務していた地域では、水道工事屋さんが機械化による大規模農業をめざして頑張っておられました。私にとってはは初体験で、「水道屋が農業？」という社長に聞いてみたら「水道工事だけでは社員を食わせていけないから、年間作業時期が決まっている農業を始めた。最近耕作放棄地も増え農地の確保は苦労しなかった。」という返事でした。社員全員が春と秋の農繁期には大型機械を使って農作業に従事し、今は経営安定だそうです。過疎の農業を考える時、生きる道はここにありかな、と思いました。

生家の様な山奥の過疎の地域では農業法人も無く高齢化の農家の耕作は個人農

家に依頼するしか方法はありません。いずれは耕作放棄です。

吉舎町にも農業に参入した建設業者があると聞きます。そういう業者や農産物加工食品製造グループなどと連携し、行政や農協等の力を借りて安田地域全体が今後存続が出来ないか考えているところです。

人生九〇年。六〇歳からの三〇年を生きて生活するため、地域の同年配と話し合いを重ね頑張っています。

「支援」していただいている企業・団体

- ・ミヨシ電子株式会社
(三次市東酒屋町)
- ・(株)三次衛生工業社
(三次市四拾貫町)

「支援」していただいた皆様

- ・瀬川順子 (三次市三良坂町)
- ・匿名 (三次市三良坂町)

